

2

7 で 龜  
乗 丸  
れ に  
な 五  
か 分  
つ 売  
た つ  
た せ  
い  
  
(同意可)

助 け

工

世 戰

イ

A  
B  
ア

非 常

デ ア

(7 完 答)

ぐ

か

し

ウ

ア

アル 計 画

そ

工

d

a

b

c

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9

3

イ 工

(記述題)

ウ

工

工

工

工

工

工

自 分 売 る

ぼく の 五

工

工

工

工

工

2

工

イ

ア

工

工

温 水

工

工

工

4 詩 人  
5 転 ぶ  
6 温 水  
7 知 る  
8 決 心

1

配 点	
1・3	2・4
2	7
その他	各 2 点 × 13 = 26 点
	6 点
	各 4 点 × 17 = 68 点
	<計> 100 点

1

「目」が「月」に見えないよう、ていねいに書く。また、「口」を繰り返し字にしないように注意すること。

「矢」の部分を「失」と区別して、上を出ないようにして書く。

「心」は、一画目と二画目に気をつけて「入」のように書かないこと。

1と同じく、「口」を繰り返し字にしないように。「寺」の最後の点まで、きちんと書くこと。

「云」の「ム」の部分を繰り返し字にしないこと。

「水」は四画の字であることとに注意しよう。

2

1 アの「頭に入らなかつた」は、ギターのことしか考えていないからだし、イの「ねじこんだ」、ウの「とびこんだ」からは、はやる気持ちが感じられるが、エは、たんにギターを買ったことを表しているだけで、ほしいという気持ちは感じられない。

2 1は、「ぼく」のことはなんでもわかっているという優越感のあらわれたことばかり考える。2は、直後で「かんたんにいうけどなあ、安くないんだぞ」と言い返していることから、気にさわってふゆか的な気持ちを表すアがふさわしい。3は、おどろきあきれる気持ちだけでなく、直後の「たしかに」からもわかるように心を動かされているので、複雑な気持ちが感じられることばがふさわしい。

3 「買う」ということばと「時間」ということばが結びつかなかつたのである。ただし、「八字」という条件と「」以外の部分からさがすという条件下に注意しなければならない。◎の「そもそも」「できるわけがないと思つていて」に注目して、これと同じ表現が本文の最後のところに書かれていたことに気づいてほしい。

4 「ぼく」が、どうやって時間を売るのかと聞いたところ、亀丸は「ぼくの五分を亀丸に売る」といえばよい、と答えている。

5 「友だちがいらなくなつたからくれたんだ」といつていてるのだから、お金のやりとりについて書かれているアとウはあてはまらない。また、亀丸の名前は出していいことになるので、アとエはあてはまらない。イならば、学校から帰ってきたときにギターを持つていて「ぼく」のすがたを見たしゅんかんに、おかあさんが聞きそうである。

6 「あてはまらないもの」を選ぶことに注意する。「後ろめたい」の意味は、自分に悪いことがあつたり、良心にはじる気持ちがあつたりして、気がとがめることである。ア・イ・ウはすべて同じことをちがう角度から言つていてるだけで、亀丸に対してもうしわけないという気持ちが感じられる。エは「亀丸をだました」と言つていてるところがおかしい。亀丸から言いだしたことであり、「ぼく」はその話に乗つただけである。

7 □⑤の前に「もしかしたら」とあり、「せいでの」の形で書くという条件がついている。五分遅刻したときに、「もし

かして、亀丸に五分売つちゃつたせいで、今日は遅刻してしまつたのだろうか」と思ったことに注目してほしい。二回目も同じように思つたのである。「せいで」の前に「五分売つた」、あとに「乗りおくれた」という内容を書けばよいことになる。

8 亀丸に「五分」を売つたために、「ぼく」は「五分」を失つたのである。五分を使えなかつたものを選ぶことになる。アがあてはまる。アは五分間の待ち時間があつたのだから使つていてるだけで、亀丸に対してもうしわけないと競争しあうこと。

9 時間の点から見ると、すべて別の時間になるどころなので段落の切れ目としてはまちがつていかない。そこで、内容の点から見て、亀丸に時間を売つたために大きな変化が起つたところから分けるとエがふさわしい。

3

1 国民投票の結果、「工事に向けた準備」が始まつたのだから、「工事」をするかどうかについての投票だつたはずである。次の段落で「トンネル」「計画」とあり、「中略」の前にある「ベース・トンネル建設」のことだったことを見ぬいてほしい。ただし、さがす場所は「中略」よりあとであることに注意しなければならない。

2 aは、よいものの中から、さらに選びぬかれたもの。bは、ここでは記録を更新すること。cは、いつのまにか。dは、たがいに負けまいと競争しあうこと。

3 「いどむ」が「挑戦」といいかえられることに気づけば、「世界のだれもなしとげたことのない」が「世界一」の意味になることにも納得できるのではないか。

4 1は「大清水トンネル」につづいての記録更新であることからわかる。2は「仲が悪い」どころか「尊敬しあつたり」「助けあつたり」するという結びつきの部分。3は、直後に「たくさんあります」とあるので、残つているものがあることを表す「まだ」がふさわしい。

5 新たに始めようとしている工事なのだから、エ以外ありえないだろう。

Aは「身の引きしまる」と結びつくものなのでイがはいる。Bはこの前の「まいつたな」「どんでもない」が手がかりになる。「青函の方式がヒントになり、ゴッタルドでも取りいれられました」に注目する。

8 「ライバルのような関係」の説明が、「中略」よりあとにも「ゴッタルドの工事でも」として書かれているのである。「中略」の前に「スイスと日本の鉄道」の関係として「尊敬しあつたり、ときには助けあつたり」と書かれていた。

9 「まちがつているもの」である。アは「大清水トンネル（全長22・2キロ）」が通り、シンプロン・トンネルがなしとげた世界一長い鉄道トンネルの座は73年ぶりにうばわれましたからわかる。ウは「青函トンネルが津軽海峡の地下をつらぬき、世界ネルは「全長53・9キロ」である。イは「全長は50・5キロと青函より短い」と合わない。